

2-6

演題	従来型施設での排泄ケア改善の取り組み
副題	～オムツセンサー活用による新たなアプローチ～

排泄改善
生産性向上

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ富岡

発表者名 (職種)	加藤 綾 介護職員
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市金沢区富岡東 2 丁目 1-5
TEL	045-776-1230
FAX	045-776-1060
メールアドレス	wari_ay@wakatake.or.jp
URL	https://wakatake.net

今回の発表施設 またはサービスの 概要	わかたけ富岡は 2002 年開所。入所定員は本入居 134 名、ショートステイ 10 名の従来型介護老人福祉施設です。「職員一丸となって人を幸せにします。」という法人使命のもと、自分自身が利用したいサービスの実現に努めています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

現在、日本は少子高齢化に伴い生産年齢人口の減少が続いている。そのような中、国の施策では ICT の導入や業務改善により介護現場の生産性向上が喫緊の課題となっている。公益財団法人介護労働安定センターが発表している令和 5 年度「介護労働実態調査」結果によると入所施設系の介護ロボット・ICT の導入状況について日常的に利用していると回答した中でパソコンによって利用する介護ソフトは約 81%、次にベッドセンサーは約 68% であった。介護ロボットでは入浴支援は約 8%、装着型の移乗支援は約 7%、排泄関係は約 1% という結果であった。本研究の目的は、従来型特養における排泄ケアにおいて介護ロボットを導入することでご利用者の快適性と職員の変化について明らかにすることである。

取り組んだ課題

背景として介護現場の生産性向上に向けて、ここ数年の間にわかたけ富岡では様々な機器のトライアルを行い、食事、入浴、移乗、記録類は機器を導入を行ってきた。新しい介護に向けての改善を通し、現場のオペレーション数の見直しや残業時間など一定数の成果を得ることができている。一方で、排泄介助においては大きな変化がなく従来の介助方法で経過していた。オムツの品質は開発が進んでおり、ムレやごわつきの改善など快適に使用できるようになってきているが、介護現場では個々の排泄タイミングの把握には多くの時間と労力を割き、ご利用者に負担をかけている現状があった。ご利用者、職員双方に負担なく排泄アセスメントはできないか？また生活の中で不快な時間が少なくできないか？という課題解決のため、神奈川県ロボット実装促進事業にエントリーし、オムツセンサー導入を行い、取り組みを開始した。

具体的な取り組み

- 株式会社光洋のオムツセンサーと専用パッドを使用。オムツセンサー装着時には排尿時間、排尿量、排尿回数、パッド内吸収量のデータを取得。

ご利用者ごとに使用パッドやパッド内吸収率の設定を行い、上記データを常時 iPad で確認できる環境を整え、ケアの合間に確認。

パッド内吸収率 70% と設定を行い、パッド内吸収量が 70% に達した表示が出たタイミングで排泄介入を行った。

- 対象者：施設内の 1 つの生活単位(ブロック)を対象にオムツ使用者 4 名、トイレ誘導者 4 名を選定。
- 運用期間：2024 年 1 月～3 月
- 効果測定：センサー装着前後の不快時間数の比較
職員アンケートを実施

活動の成果と評価

- ご利用者の快適さの追求
 - 排泄アセスメントでの確認作業は不要となり、負担軽減に繋がった。
 - パッド内吸収率を設定し、設定を越えた際にアラートを表示させることで交換のタイミングが分かり、不快な時間を短く交換することができた。今までの交換タイミングと比較すると不快と感じる設定値を越えた時間数の減少に繋がった。
- 職員の負担軽減
職員アンケートの結果身体的負担軽減については約 7 割、精神的負担軽減については約 4 割の職員が軽減したと回答。
排泄ケアの意識向上につながったかという質問には約 7 割の職員が繋がったという回答となった。

今後の課題

- 対象者を増やしての活用
- 継続できる仕組みの構築
- 改善の継続

参考資料など

公益財団法人介護労働安定センター 令和 5 年度「介護労働実態調査」